



気象台と
レーダー雨量観測所

防災にかかせない気象情報基地を探検したよ

こんかい探検したのは、気象台と
レーダー雨量観測所。台風情報にも
かわりの深いところだね！
さて、どんな発見があったかな？

探検隊の子ども記者(右から)

小林 隼くん
(前橋市立東小6年)
春山 彩佳さん
(高崎市立長野小6年)
久保田 結季さん
(みどり市立笠懸東小4年)
田中 省吾くん
(高崎市立堤ヶ岡小6年)
金子 侑樹くん
(高崎市立塚沢小5年)
榛沢 友詞くん
(前橋市立筑井小5年)



新聞やテレビで「天気予報」を見たり聞いたり
すること、あるでしょ？ パソコンでもインターネ
ットを通じて見ることができるようね。
探検隊は、その天気予報や防災情報に関係した
ところ、「前橋地方気象台」と「赤城山レーダー雨
量観測所」を訪ねたよ。
天気予報というのは、ただお天気を知らせるだ

けじゃない。たとえば、台風が来そうだという
き、その情報をいち早くキャッチして、みんなに知
らせる。そうすることで水害などへのそなえがで
きる。つまり、防災(災害をふせぐこと)の役割も
はたしているというわけだね。

109年前にできた気象台

はじめに訪ねたのは、前橋地方気象台。前橋市
のまちなか、群馬大学医学部の前(昭和町)にある
んだ。

この前橋地方気象台ができたのは、なんと明治
30(1897)年！ 今から100年以上も前な
んだ。当時の明治政府が
気象観測を始めたのは、
さらにさかのぼって明治
5(1872)年、北海道
の函館測候所が最初とい
うことだよ。

前橋地方気象台は建物
もかなり古い。気象台の
森野さんのお話では「昭
和初期の建築ではないか」
ということだ。70年か80年
くらいたつてるわけだね。
建物の中に入ると、古い



前橋地方気象台の建物。屋上に風向風速計が見える

木造校舎のような感じ！ いきなり「探検」みたい
で、ちよつとわくわくした気持ちになったね。

芝生の庭は観測の広場

建物の中をとって外に出てみると、おつ、き
れいな芝生の庭になっている。



露場で気象台の森野克彦さんのお話を聞く。中央の丸い筒は雨量計

じつは、この庭は「露場」といって、気象観測のた
めのいろいろな器械(測器という)が置いてあると
ころなんだ。

たとえば、温度計、湿度計、雨量計...などなど。
日ざしの強さを測る日射日照計、雪の深さを
測る積雪計などもある。

芝生にしてあるのは、日ざしや雨などの地面か
らはねかえりをおさえて、気温や雨量などを正
確に測れるようにするためなんだって。

庭のまんなかには百葉箱があるけど、これは「見
学用」。いまは、測器もハイテクになってるとい
うことだよ。

あれ...？ でも、風はどうやって測るの？
...と、上を見ると、建物の屋上にプロペラ飛行機
のようなものが...

そう、風向きや風の強さを測る風向風速計は、
まわりにさえぎるものがない高いところにおいて
あるわけだね。

さらに、このような器械による観測にくわえて、
人間の目で空のようすの観察もしているんだって。

天気予報を出している現場

庭(露場)に面した部屋が「技術課現業室」...と、
ちよつとカタイ名前だけど、ここが天気予報を出し
ている現場なんだ。

部屋の中のパソコンには、建物の外で観測され
た気温や湿度、雨や風などのデータが1時間おき
に送られる。

さらに、群馬県には無人の気象観測所などが約
30カ所もあつて、そこからデータが送られてくる
んだって。

それらのデータをもとに、3時間おきに天気図
をつくり、その天気図をもとにして天気予報を出
すというわ
けなんだ。

天気予報
を出すのは、

午前5時・
午前11時・
午後5時の
1日3回。

この情報が
新聞やテレビ
などで伝え
られるとい
うわけだね。



現業室を見学！「へー、ここで天気予報を出してるんだ」

とくに大事な防災情報

気象台の仕事は1年中、24時間休みなし。毎日
交替制で職員の人たちがはたらいている。

天気予報のなかで「注意報」や「警報」というの
を聞いたこと、あるよね。

●気象台とレーダ雨量観測所探検隊



雨粒のかたちって？ 風を下から送りながら、注射器で水滴を落とすと…



わたあめ…じゃなくて、たつまきをつくる装置

みんなで気象の実験もしたよ

気象台探検の最後に、みんなで気象にかんする興味深い実験をすることができた。「たつまきは、どんなふうにおきるの？」

たとえば、大雨や大雪になりそうだと、洪水が起きそうだと、あらかじめみんなに知らせるわけだね。これは災害をふせぐために、とても大事な仕事なんだ。というわけで、気象台は1日中、眠ることがないんだ。

山の上に巨大なげんだま！

次の目的地は、地蔵岳(標高1674m)の山頂！ 赤城山の峰のひとつで、バスで行けるのは山の途中まで。あとは、自分たちの足で登山をしなければならぬ。えいこら、ふうふう、山道を登ること約30分。やがて霧の中にあられたのは、おどろく、つかい建物！ いちばん上がまあるいドームになって、まるで巨大な「げんだま」のよう！



今回の探検は赤城山登山のおまけつき！

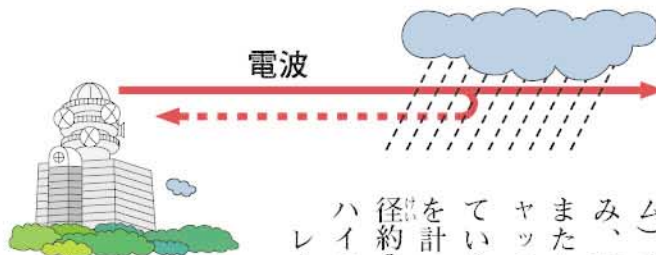
これが、利根川ダム統括管理事務所だ。管理している赤城山レーダ雨量観測所。てっぺんのドームの中に大きなアンテナがあって、いつもぐるぐる回っているんだって。



地蔵岳山頂にたつ赤城山レーダ雨量観測所。でっかい！



レーダ室で利根川ダム統括管理事務所電気通信課の工藤係長の説明を聞く



観測所の中の「レーダ室」をとくべつに探検！ 「いろいろな装置があるね」「静か！」「でも、ここは『雨量観測所』なんですよ？ どうやって雨量を観測してるのかな？」

お話を聞いて、びっくり！ レーダ雨量観測のヒミツがわかった。ぐるぐる回るアンテナから電波(レーダービーム)を出す。電波はまっすぐに進み、雨粒に当たってはねかえり、またもどってくる。その電波をキャッチする。そうして、雨のふっている場所や広さ、雨の強さなどを計っているんだって(電波は半径約200キロメートルまで届く)。うーん、ハイテク！ すごくいいきみだね。レーダがとらえた情報は、利根川ダム統括管理事務所へ送られ、インターネットの防災情報などに役立っている。台風についての情報も、いち早く知ることができるんだよ。

●レーダ雨量観測のヒミツ！

観測所の中の「レーダ室」をとくべつに探検！ 「いろいろな装置があるね」「静か！」「でも、ここは『雨量観測所』なんですよ？ どうやって雨量を観測してるのかな？」



結季さん「いろいろなところに行けて、ふだん見られないところも見られた。いい思い出になった」

彩佳さん「山登りはちょっとつきたけど、観測所のおかげでみんなで食べたごはんがおいしかった。友だちもできて楽しかった」

もりだくさんの1日を終えて



赤城山の地蔵岳山頂で。山の上は霧につつまれていた